

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(美術)／内藤  
隆

### ■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

#### 1. 目標・計画

①、「授業内容」は、デザイン分野の特性を生かし、個性を探ることのみならず、幅広く他の分野への知的興味も同時にひき出して行くような内容、もしくは素材や制作を通して世界観を広げられるような内容を目指す。

②、「授業方法」は、基本的に制作を伴うことが多いため、完成のビジョンを構築しやすく具体的である方法、受講者に判りやすい方法を目指す。また、制作技術や知識についてのフォローを重ねられる態勢を保つと共に、常に受講生の評価を取り入れて改善できる姿勢を保ちたい。「判りやすい伝達」を目指し「学ぶ事の楽しさ」を伝えれば、受講者各自による工夫の素地を築けるものと考ええる。

③、「評価方法」は、出席、受講態度、作品による評価としている。作品は本人の考え方の成熟度や、傾注した時間等が目に見えて判るものなので、今後もこの評価を続けたい。

これらにより、人間形成的立場からも、授業を通し「高度専門職業人である教員としての質保証」に臨みたいと考える。

#### 2. 点検・評価

「授業内容」については従来から積み重ねて来た内容・方法に加え、判りやすさを目標とした解説素材等を作成し加えた。いくつかの授業で新たな資料等を作成した他、特に本年は大学の進めた「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」の教科内容学研究協議会の動きに合わせ、コースの他教員と協力の上、図画工作テキストを作成した(実際の使用は次年度となる)。

「授業方法」については、制作課題ごとに受講生に「完成見本」を示した(美術の場合、完成見本を見た上で制作に当たっても、各自の工夫が焦点となる為に多様性を阻害することにはならない)。制作技術・知識については、上に挙げた「テキスト」にも盛り込んだ。幸い受講者から「ハードだが楽しい」という評価は受けており、受講者のモチベーション確保・工夫は本年も担保できていると考える。

「評価方法」は従来からの方法(年度目標もこれと同じ)に則り、公平性を保って行った。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

- ① 部活・サークル等の顧問というかたちを通して、今後も学生支援にあたる。
- ② コースの教員や学生課、心身健康研究教育センターと協力し、適宜学生生活上の相談に対応する。

#### 2. 点検・評価

- ① 授業や専門内容を通じた手当てのみならず、手話サークルの顧問、N\*CAPのコーディネーターというかたちで、学生支援にあたった。
- ② コースの教員と協力し、適宜学生生活上の相談に対応した。本年は幸いなことに、自分の周囲では学生課・心身健康研究教育センターと連携して相談する様なケースは発生しなかった。

なお教育業務として、本年は通常の授業担当以外に、連合博士課程1年対象の「学生参加プロジェクト」の本学コーディネーターを担当した。

### Ⅱ-2. 研究

#### 1. 目標・計画

- ①、各種機材等の把握・精通に務め、表現・制作への応用を目指す。
- ②、作品については、機会をみて発表を心掛ける。

#### 2. 点検・評価

- ①、本年は、年度末にはスケジュール過密となったが、教育業務に支障を及ぼす事態はなんとか避けられた。今後、スケジュールの自己管理をより向上させ、機材把握についての時間をより確保していく。
- ②、制作では、N\*CAPの印刷物、音楽コンサートの印刷物など発注を受けデザインし、各クライアントから好評を得た。大学紀要第29巻へ論文掲載あり(連名:筆頭)。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

教員として、また各種委員会委員としてコース及び大学への貢献に務める。

### 2. 点検・評価

教員として、また各種委員会委員として部・コース及び大学への貢献に務めた。  
本年は、特に教科内容学研究協議会に参加し、教科書原稿制作に協力した。  
兵庫教育大学連合大学院学校教育学研究科の各業務にも参加した。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

大学院の授業、教育実践フィールドなどを通して、附属及び地域学校教員と連携を図る。

### 2. 点検・評価

大学院の授業、教育実践フィールドなどを通して、附属及び地域学校教員と連携を図った。  
他の項目とも重複するが、「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」の教科内容学研究協議会で役割を果たし、美術コース内で図画工作テキストを取りまとめた。  
また、地域児童の美術教育活動であるN＊CAPのコーディネーターなども務め、昨年に引き続き鳴門市のキャラクター制作にも協力し、公開講座デッサン教室も講師を務めるなど貢献した。

### Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

他の欄とも重複するが「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」の教科内容学研究協議会に参加、図画工作テキストの取りまとめを行った。  
本年度より兵庫教育大学連合大学院での職務にあたった。